決算委員会　最終日

【笹岡委員】　　よろしくお願いいたします。

　主に**公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団について**質問させていただきます。

大学との交流事業の聴講料補助金交付補助事業、武蔵野地域五大学聴講料補助金交付について伺いたいと思います。

　市内に住む18歳以上の方が亜細亜大学と成蹊大学、東京女子大、日本獣医生命科学大学、武蔵野大学の講座を受けられるということで、**１大学１万円の補助金が交付**されております。

それについて、この１万円という根拠について御説明お願いいたします。

【齋藤生涯学習スポーツ課長】　　聴講料補助金についてのお尋ねでございます。

こちらにつきましては、五大学の実務担当者の方々、それから、もちろん学長懇で学長先生の方々と協議する中で、どうやって魅力的な授業を市民の方々に受けていただけるかということで、話し合いながら決めてきたものでございます。

　こちらにつきましては、**現在１大学分受けていただく市民の方に１万円、２大学、別な大学にまた受けていただく方にはもう１万円の補助をしているというもの**でございまして、こちらにつきましては、実際の補助を受けない場合の聴講料との見合いでもって１万円で、まずはインセンティブでやってみようということで始まった経緯がございます。

【笹岡委員】　　ありがとうございます。

１万円の補助が出るということなのですが、科目の受講料というのは半期だと１万5,000円、通年だと３万円ということで、もし半期のものを受講した場合は１万5,000円の中の１万円が払われるというような補助が出る、自費で出す分は5,000円ということで、合っているかどうか確認したいと思います。

【齋藤生涯学習スポーツ課長】　　委員おっしゃるとおりでございます。

【笹岡委員】　**少し補助金の率が高い**のかなという印象を受けます。

例えば、全く場所は違うのですけれども、幼稚園の補助金ですと、所得制限がかかって、5,000円になっています。この5,000円、所得制限がかかっているというのは、幼稚園の全体の52％が大体5,000円が出ています。

そういうのに比べると、生涯学習という観点で、いつまでも向上心を持って学習していくという意味ではすごくとても意義深いものだと思うのですけれども、ちょっと子育て世代からしたら違和感があるように感じます。

これを受けている方の**属性**といいますか、**平均年齢**や、どんな方が受けているのか、もしデータがあればお願いいたします。

【齋藤生涯学習スポーツ課長】　　こちらの実際の利用でございますけれども、**60代、70代の方が今非常に多い**利用がございます。

ちょっと今手元に細かい内訳がなくて申しわけございません。

率の問題でございますが、属性として60代、70代の方が非常に多いということから、御自身で、例えば、給与収入を得たりとか、そういうことがない方、**年金暮らしの方などが利用されている方の多くにいらっしゃるという状況**がございますので、**経済的な格差でもって学習の格差が生じないような形**で考えて、今の料金設定となっているところでございます。

【笹岡委員】　　わかりました。

年金暮らしの方からたくさん取ったらいいのではないかというような流れになるとちょっと本意とは違うのですけれども、これは**学んだことを何か還元するような、学びっ放しではないようなシステムがあるのかどうか**ということと、これは18歳以上ですよね、すごくこういう手ごろな値段で大学の雰囲気を味わうというか、行って勉強できるという機会はなかなか貴重なものだと思うのです。

こういうものの門戸を、**例えば、大学に行きたくても行けなかった若者とか**、向上心があるけれども、機会がなくて、逸してしまった。

でも、どこかで勉強したいと思っているという人たちは結構いると思うのです。そういう方々にどんどん周知をするなり、あとは、**若者サポートと連携するとか**、そういったいろいろな方向性とか可能性というのはあるのかなと思うのですけれども、そのことに関して御見解をお願いいたします。

【齋藤生涯学習スポーツ課長】　　主に若者に向けてもこのような門戸を開いていくということでございます。

現在18歳以上としているところでございますが、こちらにつきましては事業自体が大学の正規授業などもございますので、非常に専門的な授業であるということから、このような年齢設定をしたところでございます。

ここの年齢を、もっと、例えば、引き下げられるかとか、そのあたりにつきましては、大学の五連協、五連協と私どもで言っているんですけれども、五大学の連絡協議会というのがございまして、年に数回仕組みについての話し合いをしてございますので、その中で少し取り上げて話をしてみたいというふうに思っております。

　なお、**補助がこのような形で非常に低額で授業を受けられる仕組みが現在ございますので、それにつきましては、例えば、まだ収入の少ない若者等も受けていただくのはいいもの**かなというふうに思っております。

【笹岡委員】　　わかりました。

**私自身は年齢を下げるというよりは、高校から働き始め、社会に出た方とか、そういったところで18歳以上の方というのがいいのではないかなと思っております。**

　あともう一つ、この学びっ放しにならないシステムというのがあるのかどうかの質問についてお願いします。

【齋藤生涯学習スポーツ課長】　　学びっ放しかどうかというところ、先ほど答弁漏れがございまして申しわけございませんでした。

　現在につきましては、学んでいただいて、それを御自身の生活の糧にしていただく、御自身の生活を豊かにすることに生かしていただくというような流れでやってございますので、例えば、学んだことを何か発表する機会を市側で用意するといったような仕組みはないのが現状でございます。

　委員がおっしゃられたような、例えば、高校を出られてお仕事をされて、でも、学ぶ意欲はあってという方々につきましては、こちらは門戸を広く開いてございますので、周知は現在市報ですとか、自由大学通信等での広報になっているのですけれども、**なるべくそういう方にも届くような工夫**というのは考えてみたいと思います。

【笹岡委員】　**ひとり親世帯とか、そういったところのサポート等、どんどん広い視点で連携していっていただけたらなと思っております。**

ぜひ雰囲気は味わっていただきたいと、雰囲気を味わうだけではだめなのですけれども、どういう感じかというのをやっていただく機会にはすごくいいかなと思っております。

あと、身近にもそういう方は結構いらっしゃいますが、情報が来ていないということで、自由大学通信だとその大学の中だけになってしまいますので、何かそういった施設に情報を落とすとか、いろいろな方向性を考えていっていただきたいなと思っております。

　もう１点、**スポーツ教室**について伺います。

大体32～33ページとかなのですけれども、大人向け講座、ママ向け講座、子ども向け講座、親子講座の全体のバランスなのですが、ちょっと集計しまして、倍率を出しました。そうしたら、大人向け講座は0.7倍、ママ向け講座は0.5倍、子ども向けは0.7倍、親子向けが0.5倍ということで、**大人と子どもよりもママ向けと親子向けが人気なのかな**と。

もう少しここの、何というのでしょう、考えてみたら、親子で通えるところはなかなか民間でも結構難しくて、別々になったりすることが多いので、ここの拡充という方向性はあるのかどうか伺いたいと思います。

【盛田（公財）武蔵野生涯学習振興事業団派遣参事】　　御質問ありがとうございます。

スポーツ教室に関してですけれども、全体のバランスというのは、実は具体的にこちらのほうで分析はしてございませんでした。

けれども、方向性としまして、やはり、何といいましょうか、子育て世代の方に対する事業というのはなかなか、委員おっしゃられたとおり、非常に機会が少ないので、公益財団としてそういったものを目指していこうということで、

**親子向けの講座については拡充をしていきたい**というふうに思っています。

今年で言いますと、産後ヨガですとか、そういったものをプレイスですとか、あるいは、コミセンなどでも実施しておりまして、今後も事業団の体育館だけに限らず、いろいろな地域のほうで実施をしたいというふうに思っております。

【笹岡委員】　　ありがとうございます。ぜひ進めていただきたいなと思っております。

　平成27年度の事業計画書にも、ちょっと私は知らなかったのですけれども、**一時保育事業**というのが入っておりまして、**157万円の事業費で、子育て中の市民が安心して生涯学習、スポーツ振興事業に参加できるように一時保育を行いますというふうにある**ので、ぜひこういったサポートもあるならば、親子向けの講座というのをどんどん広めていっていただきたいなと思っております。期待しております。

　もう１点、**ストリートスポーツ広場について**伺いたいのですが、平成26年度事業報告書の46ページになるのですけれども、**年間8,000人の利用**ということなのですけれども、子どもたちが使用しにくい、ちょっとレベルの高めの設備になっているという声が届いておりますが、今後もう少し子どもたちが使用しやすいような仕様にすることの方向性について御見解を伺います。

【齋藤生涯学習スポーツ課長】　　ストリートスポーツ広場でございますけれども、こちらは青少年の健全な育成ということを目的に設置をされた施設でございます。

現在初心者の方は平面の部分を中心に利用していただくような形をとってございまして、**少しアメニティはレベルの高いものが設置されている現状**がございますけれども、ただ、利用者の中でうまく声をかけ合って、譲り合って、初心者の方も少しでも楽しめるように、その辺も青少年同士の交流を図る意味では少し意味があるのかなというふうに思っているところでございます。

施設につきましては、限られたスペースでの配置でございますので、なかなか丸々取りかえる等は難しい現状がございますけれども、工夫し合って利用するということが、それもまたよいものかなというふうには考えているところでございます。

【笹岡委員】　　ぜひ前向きに検討していただきたいなと思っております。

先日中学校の競技大会のときに、ちょうどストリートスポーツの教室を開いていて、通りかかったので見てみましたら、やはり四、五歳とか、小さい子たちがヘルメットをして一生懸命乗って、足をバタバタさせて上げたり下げたりという、多分それを見てみると、あそこをぐっと大人の人たちみたいに滑れるようになるというのは相当先だなというふうに思いました。

あとは、親子で、お父さんも一緒になって見にきていて、そこの一角はすごくにぎわっていたので、本当におっしゃるとおり前向きに検討していただきたいなと思っております。

　あともう一つ、**給食について**伺います。

財政援助出資団体経営状況調の38ページの**食育振興財団**なのですけれども、武蔵野市の給食に対してはすごく高い水準を保っていて、いろいろなことを気にされているというふうに感じております。

信頼度が高いと思っております。

その40ページの３番、給食食材等の調査研究についてなのですが、給食食材の**安全性の確認ということで、２番に食品添加物検査というのが４検体で実施されている**とあります。これの中身を教えていただきたいなと思います。

【竹山（一財）武蔵野市給食・食育振興財団派遣参事】　　少々お待ちください。

【与座委員長】　　時間かかりますか。

【竹山（一財）武蔵野市給食・食育振興財団派遣参事】　　遅くなって申しわけございません。

　中身はちくわ、さつま揚げ、黒はんぺん、タケノコの水煮でございます。

【笹岡委員】　　済みません。食品添加物の検査の何を検査しているか、食材ではなくてだったのですけれども、わかりました。

言いたかったことは、**最近アメリカの食品医薬品局、ＦＤＡというところが、トランス脂肪酸を禁止し始めた**と思います。

今後この、私も結構調べるほうですので、**子どもの食べる物に関してというのは、全力で安全を確保すべきものだと思っております。**大人は置いておいて。

新しく危険性が、今まで私たちが普通に食べていたマーガリンとか、揚げ油とかにも、トランス脂肪酸というのがあまりよくないのだよというふうな情報が来たときに、こういった食品の安全性の確認という部分や、そういった新しい知識を入れていただけるのかどうか、**今後トランス脂肪酸に対しての対応**といいますか、その検討をしていただけるかどうか御見解を伺います。

【竹山（一財）武蔵野市給食・食育振興財団派遣参事】　　トランス脂肪酸につきましては、こちらの発表される前から私どもの役員会などでも話題になっておりまして、**マーガリン等の使用はしておりません**。

あと、揚げ油を何回か使うことによってトランス脂肪酸というのが出るということですので、**揚げ油の利用なども十分回数を考慮する**などして、トランス脂肪酸についても配慮した給食の提供をしております。

【笹岡委員】　　わかりました。検討していただいていたということで安心しました。

**日本人は摂取量が少ないとは言いながらも、今表示義務がありません**ので、なかなか闇に包まれているというか、判断がしづらい部分がありますので、パンとかにもショートニングが入っておりますし、

ですので、**子どもたちの食べるものに関しては大人の数倍以上気を使って、厳しい基準でやっていただけたらなと思っております**。これは要望として終わりにさせていただきます。

【笹岡委員】　　お願いします。

堀内委員とほぼ同じなのですけれども、**臭気対策**の件で伺いますが、**予算が300万円ついていて、達成が２件**ということなのですけれども、これは、全体の臭気対策をしなければいけないビル、対象のビルというのは全体でどのぐらいなのか、おわかりでしたら教えてください。それで、どのぐらいで達成できるのか。

　あともう一点なのですが、**雨水浸透施設と雨水タンク**のことなのですけれども、市民一人一人が動いたら、かなり全体としてすごく大きな成果になると思っていて、私もつけなければいけないと思いながら、済みません、遅くなってしまっているのですけれども、これも、26年度が10件ということで、来年度は20件ぐらいつけていきたいというお話だったのですが、このぐらいをつけると一体どんな成果が出るのかというのを教えていただきたいなと思っております。

【田原下水道課長】　　まず臭気の対策のほうなのですけれども、実は平成14から17年度に、特に吉祥寺周辺なのですけれども、調査をかけております。

それによりますと、**ビル46件が対象**といいますか、ビルピットといいますが、そういうピットがあって、状態が昔のタイプになっているというのがわかっておりまして、今現在まで入れさせていただきますと12件、設置が終わっております。

そうしますと、単純に計算をしていきますと、年間、平均しますと、つけているときもあるので、３件から４件ぐらいということから考えると、**あと９年間ぐらいはかかると**いうことでして、今、平成27年ですから、36年ぐらいまでかかるというような状況なので、担当課としては、今回、活性化協議会の話もあるので、もっとペースを上げて、何しろ臭気の上がっているところの特定をするというのがなかなか難しいものですから、そういうことで、活性化協議会を含めて、お店の方々等、情報を何しろ共有をして、特定をしていって、できるだけ早く、この臭気対策を完了したいというふうに考えているところでございます。

　あともう一点、今、委員おっしゃられていたのは、恐らく**浸透ます**の件だと思ったのですが、そちらでよろしいですか。

浸透ますのほうなのですけれども、**今現在、宅地のほうで約３万2,000戸**ついております。

これが一概に、量というのはいろいろタイプがあるのですけれども、平均しますと、一般の宅地でいきますと、１基当たり、時間当たり0.6立米ということですので、今現在、0.6掛ける３万といいますと、**１万8,000から２万トン立米ぐらいの水貯留浸透効果が市内である**のかなと思っています。

　そういうことから、今のほかの公共施設のほうについては、小・中学校も水貯留浸透をやっておりますし、**宅地のほうは設置率が約３割**ということがございますので、宅地というのが、市内のほうの道路の率というのが、はっきりした数字はあれですけれども、２割以下なのですね。

そうすると、宅地で約８割ぐらいの面積がございますので、宅地に雨水浸透を全て設置することによって、下水に最終的に入る率が、下水道総合計画の目標は掲げているのですが、0.4、４割ぐらいを目標値として定めておりますので、そういうことから、あと残りの７割のお宅につけていきたいなというふうに思っています。

【笹岡委員】　　ありがとうございます。臭気対策も、思ったよりも総数が多いなと思ったのですけれども、ぜひ進めていっていただきたいなと思っております。

　あと、これはこちらを向いての要望になるのですけれども、こういったことというのは、多分、下水道の担当課の方だけではなく、まちをいつも歩いている市議会議員の皆さんもみんなで協力していって、一軒一軒、知らない方とかもたくさん、私も知らなかったので、いらっしゃると思うので、なるべく早く達成するようにしたほうがいいのではないかなと思いました。

【郡環境部長】　　すばらしい応援をしていただきましてありがとうございます。

今、委員がおっしゃいましたように、今、３割ぐらいのお宅が浸透ますをつけていただいています。さっき担当の課長が申しましたように、１個つけると0.6トンの雨がと言いましたが、これは１時間でございますので、**１時間当たり0.6トンの水が、１個つけていただくだけで地中に返っていきます**。大体１宅地で３個ぐらい普通つけていただいておりますので、そうしますと、それぞれの御家庭で１時間当たり２トンぐらいの水が地中に返っていくということでございます。

　私ども、下水道総合計画の中でも、今回、**水収支という考え方**を出しました。これは市長がよく申しておりますが、１年間で1,800万トンぐらいの雨が武蔵野市に降っておりまして、水道も1,800万トンぐらい飲んでいる。行って来いなのですね。実は飲んでいる水と降っている水は大体不思議につり合っております。

そういう中で、井の頭公園の池なんかを見てもそうですし、武蔵野市は地下水を大事に飲んできましたので、やはり水の涵養を進めたいと思っております。

そういう中で、下水道課のほうに、ことしの春に水循環推進係というのを改めてつくっておりまして、今、委員がおっしゃっていただいたように、水の学校も始めたり、私どももやっておりますが、議員の皆様も、身近なところでつけていただく方がいらっしゃいましたらぜひ御紹介していただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

----------------------

【笹岡委員】　　４日間、ありがとうございました。

初日の総括のときも言わせていただきましたが、今回の決算を見ておりまして、やはり財政の健全性等はとてもわかりましたし、公債費等を見ても、無駄をなくそうという姿勢、またきょうの質疑とかでもありましたけれども、皆さんが持続可能な武蔵野市ということをとても考えて進めていらっしゃることがわかりました。

その持続性という観点の中に、皆さん持っていらっしゃると思うのですけれども、**もう少し私が危機感を持っておりますのは、初日にお話しさせていただきました世代間公平性のこと**です。

次の世代とか、その次の世代というのは、私たちが、今、介護保険等も大変になっておりまして、やることがたくさんあるわけですけれども、**生まれながらにしてとても負債を持っている世代**だと思っております。

武蔵野市ということではなく日本のという意味であります。

ということを考えますと、単年度で見ると健全な運営をされていらっしゃると思いますけれども、やはり公平性というところにもう少し力を置いて、全体的を考えていただきたいなと思っております。

そこをとても、母親としても、普通の市民としても、次の世代とか、そのもう一つ次、もっともっと先の世代が気になっているところであります。

　これは要望になるのですけれども、世代間公平性という意味では、たまに納得ができないものとかも、私はプレミアム商品券を例に出しましたけれども、そういったものとか、今後、都からおりてくる交付金とかもいろいろあると思います。

オリンピック等とかもあると思いますけれども、ぜひそういったものを使うときに、**需要があってこその供給ということで、お金がおりてきたから何に使おうかということではなく、そのお金はもしかしたら先の世代の負担になるかもしれないという前提のもと、考えて使っていただきたいなと思います。**

これは本当に要望なのですけれども、御見解があればお願いいたします。

【邑上市長】　　持続可能性というのはいろいろなところでキーワードとして取り上げております。

その中でも、やはり税の使い方というのは、これは今回の決算委員会で皆さん方からいろいろ意見をいただいてきた部分ではないかなというふうに思いますが、**極めて公平に使わなければいけないというふうに思っています**。

その公平性の観点が、世代間の公平性というのが、もう少しこれは議論を深めないといけないというふうに思っておりますが、**税というのは、基本的には皆さんからお預かりして、それを、まずみんなでやらなければいけないことに使っていくということ、それから、より困っている人にそれを使っていくこと、これを最優先すべきではないかなというふうに思っております**ので、**世代間の公平性というより、それぞれがどのようなことでお困りなのか、そのお困りに対してどのような施策が可能なのか、こういうことを議論すべきではないかなというふうに思っています**。

　またあわせて、私どもは恵まれた財政の状況であるかというふうに思っておりますけれども、後の世代に、子どもたちに大きな負担を強いることのないような形で、しっかりとした健全な財政を続けて、そして、これから大きな課題となっておりますさまざまな公共施設のリニューアルを初めとして、そういうものに果敢に挑戦をしていかなければいけないというふうに思っているところでございます。